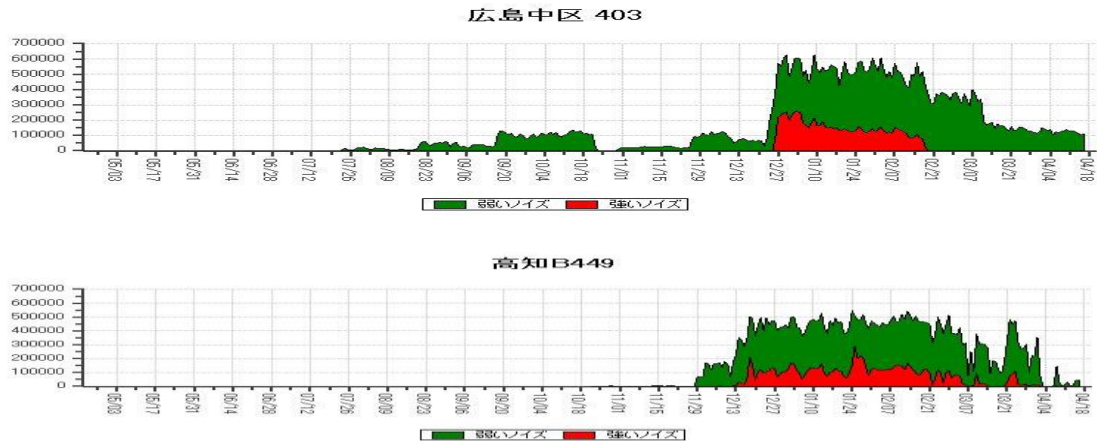


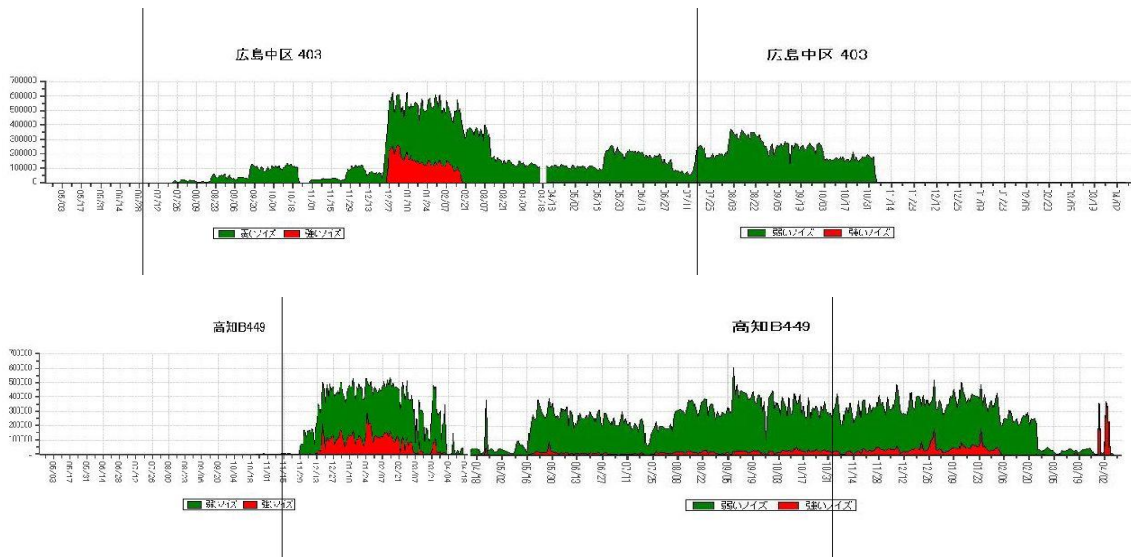
2016年4月14日、16日 熊本地震の前兆について

逆ラジオの地震予知システム（当時くるかも、現ゆれくるん）の電磁波ノイズのデータより 熊本地震の前兆現象の経過は以下の通りです。

- ① 始まりは前年（2015年）の11月ごろから
 広島中区のデータと高知のデータが急に大きくなってきた。

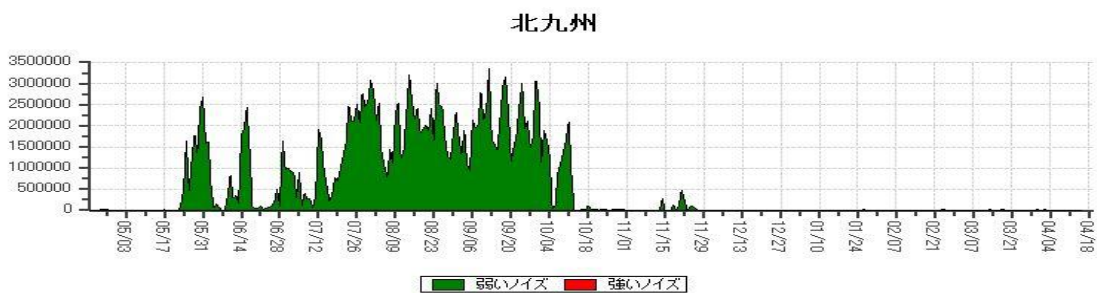


- ② それが長く続く

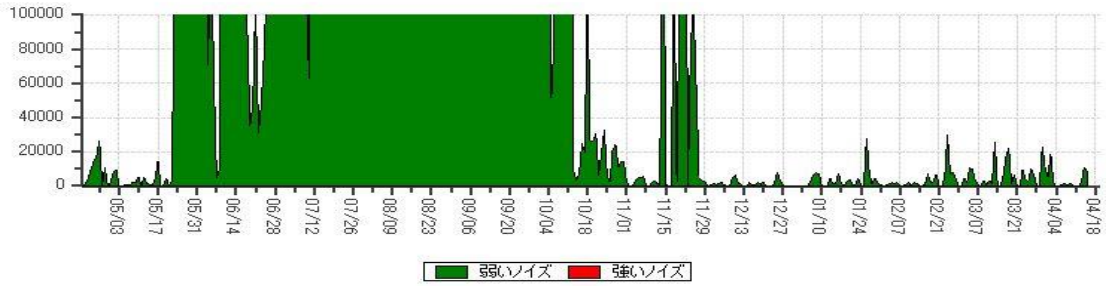


その他 周辺のデータ

- ③ 北九州のデータ



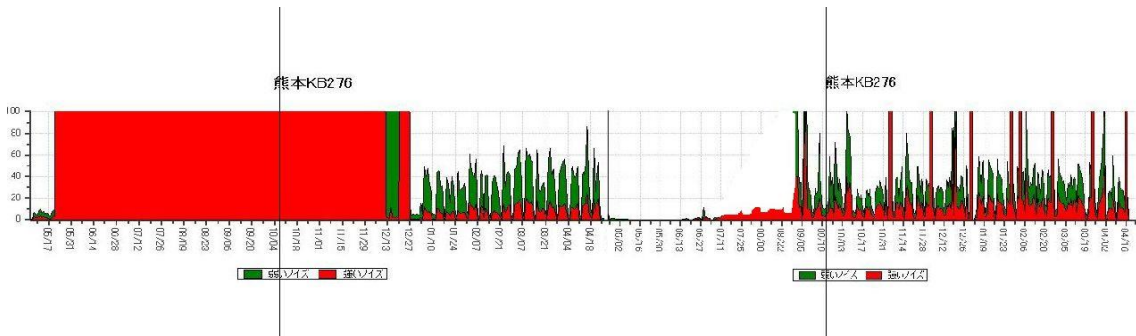
北九州



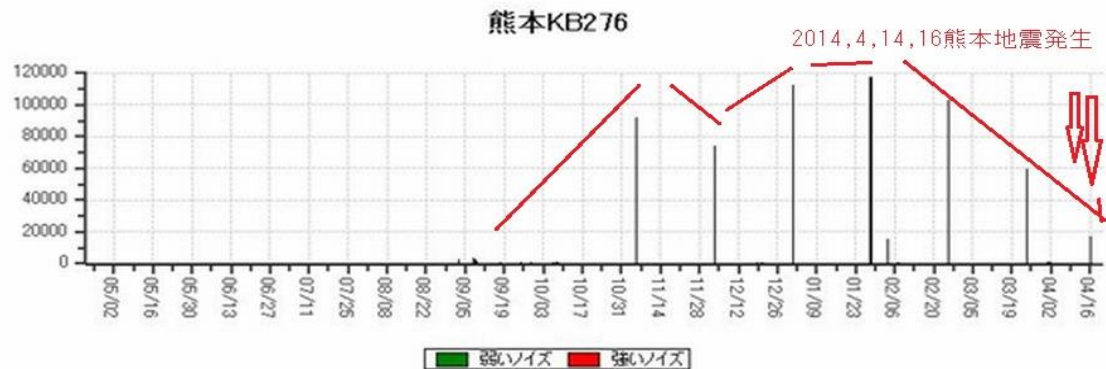
北九州のデータに関する考察；北九州でも 2015 年 5 年半ばから 2015 年 11 月まで MAX400 万という巨大データが連続しており 11 月の収束後は 大きなデータは無い。前記の 熊本のデータと同様に、このデータであれば 通常 M6 クラス以上の大地震を想定するが このときは、このまま減衰して 大きな地震は来ていない。データの継続期間はこちらも約半年間であり MAX 値は 400 万とこちらが大きいですがデータは緑色が多く 震源が遠いと考えられる。このデータが今回 2016 年 4 月の熊本大地震に関連するかは不明である。

④ 熊本のデータは？

2014 年 5 月から 2016 年 4 月までの約 2 年間の連続データ 2015 年 1 月以降、大きなデータは無い。しかし 2015 年 9 月ごろより少し大きなデータが見られてくる。



2015 年 5 月から 2016 年 4 月 16 日までの 熊本の時間毎 360 日データ。MAX 12 万の 1 本立ちが 2015 年 11 月より周期的に出て 2016 年 2 月、3 月、4 月と下降してくる。



熊本のデータに関する考察:2014 年 5 月から 12 月の熊本の大きな塊状のデータは MAX150

万程度で 半年間以上続きこのデータであれば 通常 M6 クラス以上の大地震を想定するが このときは、このまま減衰して 大きな地震は来ていない。ただしデータは赤い（強い）成分が多く震源が近いことが考えられる。データが 2014 年 12 月の減衰後約 1 年半近く経ってから熊本地震が起きた。今回 2016 年 4 月の熊本大地震に関連するかは不明である。

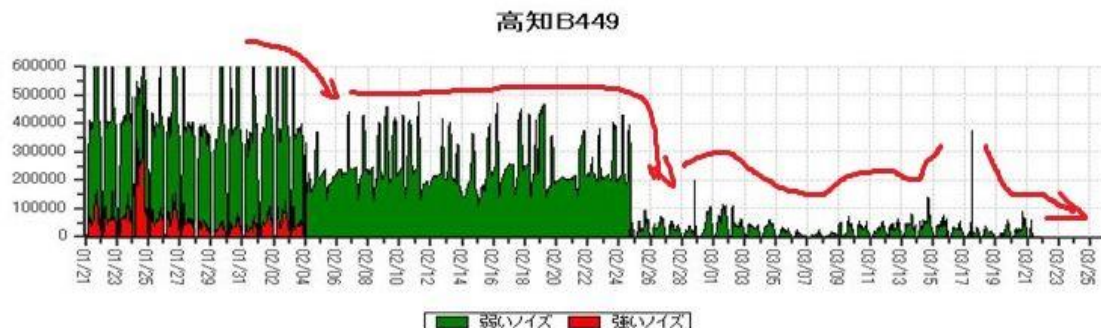
⑤ 異常の出ている地域



⑥ 2016 年 2 月になって 高知のデータの減衰が始まる。

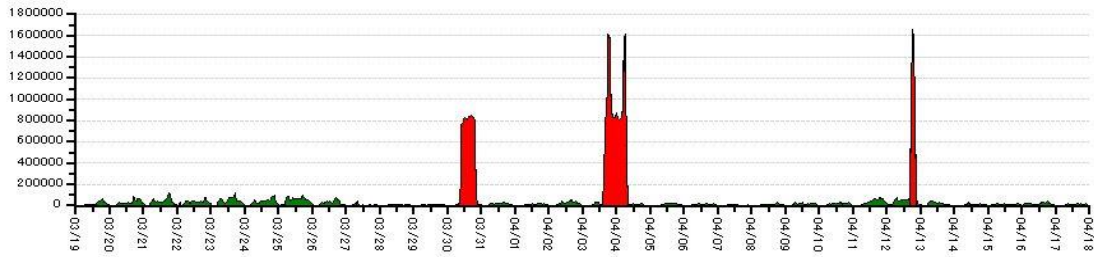


2016 年 3 月になるとさらに高知のデータが減衰していく。



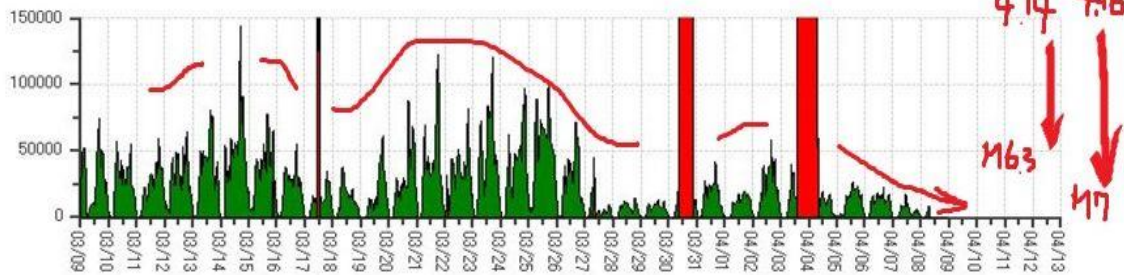
2016 年 4 月になり さらに高知のデータが減衰し 3 月 31 日と 4 月 4 日に真っ赤な大きい 1 本立ちが出現し、13 日にも大きい 1 本立ちが出た。

高知B449



高知のデータが減衰し3月31日と4月4日に真っ赤な大きい1本立ちが出現して4月14日にM6.5（前震）、4月16日にM7.3が発生した。

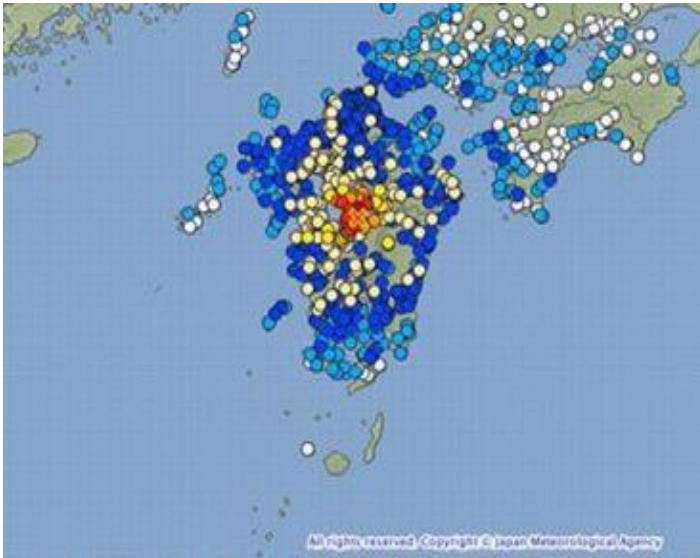
高知B449



2016年4月10日ごろの段階で

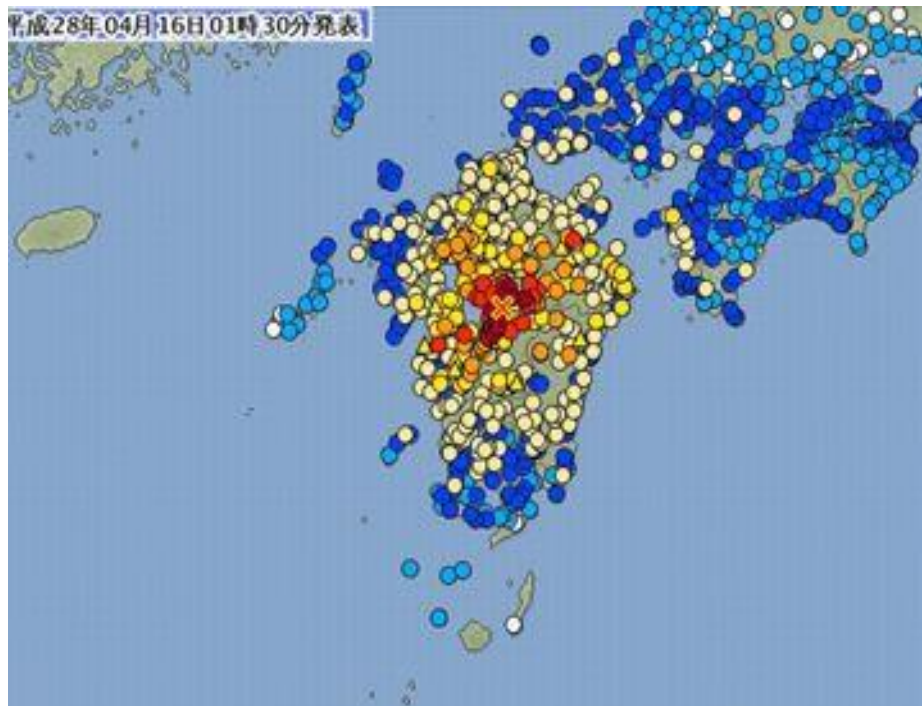
規模はM6超クラス、震源は豊後水道か伊予灘近辺、発震日は4月10日から数日を予想していた。

⑦ 地震発生 2016年4月14日（前震）発生 M6.5



2016年4月14日、熊本地方でM6.5が発生したが いままでの前兆の長さ、大きさからはM6.5では規模が小さいと思われた。この日、何人かの知人から 場所（震源）は多少離れていたが予知が当たったと連絡があったが 思ったより規模が小さいので2~3日で本震が来る可能性が高いと回答し、4月16日に本震M7.3が発生した。

2日後、2016年4月16日日本震発生 M7.3



以下 高知 B449 の2年間のデータと熊本地震発生時期。

